

本年度の学校評価

本年度の 重点目標	① 各教科等における授業・実践力の向上 ② ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③ 生徒指導上の規範意識の向上及び人権に配慮した指導・支援の充実 ④ 一人一人に応じた自立活動の充実及びキャリア教育の推進 ⑤ 地域および関係機関との連携強化及び社会参加に必要な資質・能力の育成 ⑥ 社会情勢や学校の現状と課題を考慮した危機管理体制の強化		
※以下の各項目（分掌）の重点目標は、上記の「本年度の重点目標①～⑦」に関連した内容を設定した。			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学校生活の 充実 (高等部)	「職業自立」の 支えとなる「生 活自立」に向け た教育活動及 び指導の充実 を図る 自己理解を 深め、伝える力 を伸ばす指導 を実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活自立」に向けた昨年度の実践を確認するとともに、授業改善や指導方法を検討する。 ・生徒指導部、各学年と連携し、挨拶、身だしなみ、登下校（公共の場）でのマナー、コミュニケーション（伝え合う力、言葉の選び方）、粘り強さ（課題に向き合う姿勢、自己理解）に重きを置いた指導を継続する。 ・職員の研修、授業参観の機会を設け、障害特性を踏まえた実践につなげる。 ・あらゆる視点での生徒の情報共有や教育活動の検討ができる機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が社会人の模範としての自覚をもち、指導の重点を共有して実践する。指導の重点は具体的に伝える。 ・生徒自身が自己の良さや課題について気づき、自己理解が深められるような環境設定、指導計画を立てる。 ・現在までに整えられている本宮校舎での学びや指導方針を確認し、現状に見合った見直しをする。 ・一部職員に業務が偏らないように相談、助言する。
	①③④		
学習指導の 充実 (総務部)	ICTの利活用 のための環 境整備、啓発を 行う	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や校務において、ICTを目的に応じて適切に選択できるように、情報提供を行う。 ・魅力あるホームページに向けて、迅速な更新や固定ページの見直しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートの研修や授業実践を行い利用しやすい環境を構築する。また、困っていたら質問に応じ、授業での活用方法を助言する。 ・タブレット端末の管理や持ち帰りのルールを決めて、トラブルに対応できるようにする。 ・ホームページの更新への言葉かけを行い、編集の手助けに努める。また、見やすく分かりやすいページ構成になるように見直しをする。
	①②		
(教務部)	生徒の自己決 定を支える「個 別の教育支援 計画」の見直し と、評価の質的 改善に向けた 基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画新様式策定ワーキンググループ」ProjectNext(2.0)2028”の設置と検討の開始。 ・全教科における文章表記による評価の完全実施と定期的な研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職、自立活動主任、進路指導主事、学年主任、特別支援教育コーディネーターで構成する検討委員会を立ち上げる。「本人の願いや中心的課題の可視化」「自立活動、進路指導の視点」を統合した新様式のドラフトを想定する。前年度の研修資料を活用した入力簡素化と入力内容の質的担保を目指す。検討期は4～10月、提案は11～1月、試行入力は2月を目安とする。 ・「◎、○、△」から文章表記の評価への移行を完遂する。前年度実施した現職研修で提示したキーワード集との親和性を確認するとともに、学期に1度、入力研修を実施し、文章作成スキルの向上を図る。併せて、手立てに関する意見交換の機会となるよう、複数の事例を提示し、意見を交流させやすい雰囲気醸成する。
	①④		

規範意識の向上と自己指導力の獲得 (生徒指導部)	いじめの早期発見、早期対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針及び本宮校舎のいじめ問題への取り組み方を職員に周知する。 いじめの未然防止、早期発見ができるよう日々の生徒の様子を丁寧に見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に生徒情報を共有する。 生活に関するアンケートの結果や心のオアシスタイムの相談内容を共有し、個々の悩みに組織で対応する。 生徒の変化にいち早く気づき、早期に対応できる組織づくりを行う。
	③		
	生徒会主導で生徒心得の見直しを実施する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会委執行部で見直す必要がある生徒心得をピックアップし、検討する。 生徒総会を開き、全校生徒の意見を集約する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全体の意見を集約できるように留意する。 職員、保護者の考えも集約する。
健康の維持増進 (保健体育部)	清掃活動を通して、環境衛生の大切さを学ぶことができるようにする	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が視覚的に清掃の流れを理解できるように、写真付きの新しい清掃チェック表を作成する。 全ての清掃場所にチェック表を設置し、生徒と担当教員の意思疎通に役立てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真付きの新しい清掃チェック表には、担当教員の意図を盛り込むことができるように工夫する。 必要な場合には、生徒用の清掃手順書も提示できるようにする。
①③			
進路指導の充実 (進路指導部)	生徒が社会で主体的に活躍できるよう、キャリア教育を推進し、社会参加に必要な資質・能力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 企業の障害者理解を促進するとともに、企業から「働くうえで必要な力」を聞き取り、相互理解を深める。企業から聞き取った情報をグループウェアや部会で等で伝え、職員の進路意識向上につなげる。 就労アセスメントシートを活用し、個人面談や実習検討会で、職員、生徒に対して的確に課題点などの情報提供を行う。 アセスメントの方法や進め方などは組織的・継続的な体制に整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導主事、進路担当者が中心となって職場開拓を行う。保護者や生徒に発信することに関して、企業の許可を得る。 生徒のアセスメントを通して、学年職員で共通理解を図る。生徒が希望する進路を実現できるよう支援するとともに、生徒の実態や家庭環境を把握し、適切な指導を行う。
	④⑤		
特別支援教育の専門性の向上 (研修部)	教員の資質向上のための研修体制を整え、自立活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 現職研修及び教職経験者研修を核として、計画的に研修会を実施する。 抽出自立活動を通して、個に応じた具体的な指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季研修では、研修日を集中的に2日間設けることで、軽度知的障害を有する生徒への指導・支援の専門性を高める。 抽出自立活動で指導した内容を学年で共有し、教育活動全体を通して指導する。系統的・継続的な指導を目指す。
	①③④		
地域、関係諸機関との連携 (教頭)	本宮校舎の魅力向上～宝陵高校との交流活動の充実を目指して～	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の風通しを良好にし、相互理解を深める。 従来の交流活動を見直し、より充実したものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教頭間での情報共有を活発に行うことに加え、行事前後には、宝陵高校の担当者や係に聞き取りをし、「宝陵高校側から見た本宮校舎」の姿を把握しながら、円滑に行事等の準備を進める。また、校務主任や係同士の打合せを勧奨する。 「宝陵高校と併設された学校」という使命、魅力を、学校として積極的に発信できるように、改めてその旨を職員に周知する。特に、部主事、各主任と連携し、今年度の交流活動をより有意義なものにする共に、次年度以降の交流が発展する土台づくりをする。
	⑤		
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が主体となる学習、環境設定、ルール作り ②それらの取組を下支えする教員の力量向上(研修の充実、授業力の向上、生徒の見方・評価の方法) 		